

令和2年度前期終業式(令和2年9月30日)「式辞」

校長 下雅意 一之

社会・世界を見ると、感染症はまだ収束していません。兵庫県では新たな生活様式「ひょうごスタイル」として、ウイルスと共存を意識した「ウイズコロナ」の生活習慣が推進されています。すでにマスクの着用、3密を避ける、ソーシャルディスタンスを守る、手洗い励行、体温測定など健康チェックなどが当たり前の社会になっています。働き方なども在宅勤務(テレワーク)とかローテーション勤務や時差出勤など多くの変化がみられます。教室にも電子黒板が配置され、みなさんにはタブレットが届くなど、半年の間に続々と新しいことが生まれてきました。この変化が激しい中であって、本日、本校は令和2年度前期終業式を迎えました。年度の半分かちょうど終わろうとしています。みなさん、前期を振り返ってどうですか？

私は、前期、コロナ禍にありながらも、みなさんが大きく成長してくれたと思うことが二つあります。

一つは「我慢強さ・忍耐力」を示してくれたこと。進級・入学を果たし新たな気持ちで迎えたであろう4月、新型コロナ感染症は「命にかかること」として緊急事態宣言のもと、臨時休業が続きました。行動制限・自粛が続き不自由が続く中、健康保持にも努めなければならぬ。まして、学校生活が始まらない中、不安や焦りも大きかったと思います。臨時休業延長もありました。6月初め緊急事態宣言の解除をうけ、分散登校が始まりました。少しずつ皆さんの声が学校に戻り、そして7月1日に全面再開に至りました。

元気に登校してくれてようやくみなさんの声が響き渡る学校に戻りとてもうれしく思いました。みなさんもみんなと共に学び、共に過ごせる学校生活がもどって、きっとほっとしたことと思います。

しかし、再開の一方で、体育祭中止や前期職業実習や前期校内作業実習、修学旅行など行事の変更や中止などを伴いました。多くの学校もですが、すべてはみなさんの健康を第一に考えて本校も前例のない初めての対応をしなければなりません。前期、そのような面で、みなさんには「我慢」が求められましたが、よく頑張ってくれました。健康面で大きな問題もなく、毎日あいさつよく元気に登校するみなさんの様子を見て安心しました。

この「我慢強さ・忍耐力」は、思い通りにならない時こそ必要になりますが、困難を乗り越えていこうとする気持ちやあきらめない気持ちに通じるものです。粘り強い芯の強い人になってください。

もう一つは、「集中力」「刹那(一瞬=そのときそのとき)に努力すること」を示してくれたことです。

例年通りの学習時間には足りない(前期授業日数は例年の3分の2ほど)だけに、先生方も懸命に準備して、授業にも熱が入っていたと思います。みなさんも、一日一日を大切に過ごし、勉強に部活動に学校生活すべての充実を努めたことと思います。ある日、来客と授業を見学したときに、みなさんの学ぶ姿勢に感動しました。グラウンドを懸命に走る姿、電子黒板を真剣に見て学ぶ姿、製作実習でひとつひとつ丁寧に仕上げている姿、自分の作業工程をしっかりと説明できる姿……。一人一人がいい顔をしていました。「学び」への意識をさらに高めてほしいです。

今後、「ウイズコロナ」で学校も歩いていきます。また何か変化があるかもしれません。

後期、順調に教育活動ができることを願っていますが、人間も自然の一部、生命体のひとつである以上、自然の影響を受けます。しかし、人間はその自然と対峙し進歩してきたことも事実で、これからも未来に向かいその歩みを止めるわけにはいかないと思います。進むために学校での「学び」は重要です。

みなさんはこのたび学校でみんなと共に学べる喜びを分かち合えたはずで、学校再開のときの喜び、先生や友だちと再会し話ができた喜びなど、どうかその時の気持ちを忘れないようにしてください。

明日、10月1日(木)は、2020年(令和2年)の「中秋の名月(お月見の日)」だそうです。

晴れるといいのですが、自然の一部の人間だなど思うのにぴったりな日かもしれません。また、自分について深く考えることのできる日かもしれません。「沈思黙考」の秋とも言います。ぜひ明日は夜空に目を向け、自分の生き方や将来について思いをはせてみてください。前期、夏休み前(7月22日)の集会で、私からみなさんに夢の大切さ、人とのつながりの大切さについてお話をしました。そして、夏休みの間に「なりたい自分」について考えてみてくださいと宿題を出したと思います。後期まで、わずかですが秋季休業があります。この宿題と合わせて自分をしっかり見つめ、問いに対する答えを、機会を見つけて私でも先生がた、指導員のみなさんにお話ししてください。心待ちにしています。以上で式辞を終わります。